

jFuneral ニュースレター

有限会社ワイ・イー・ワイ

2025年1月8日



なぜ生成 AI を使わない？

Windows 95 が出荷されたのがちょうど 30 年前の 11 月。

しかも日本が世界で一番早い販売でした（実際日付変更線寄りの NZ のほうがサマータイムで 2 時間くらい早く販売されたのですが、お祭り騒ぎになったのは日本です）。

多くが夜通しソフマップ前に並んだりしていました。

iPhone の発売も Apple Store 前で長蛇の列があったのもついこの間のことでしたね。

そのあと、どうなったか？

時代は動いている、今こそ早めに意識して生成 AI を使う必要があるのは自転車に乗るのと一緒で乗ることを習ったらずっと使えるマインドセットができあがります。

葬儀屋さんは使わない

実は私がミノルタでプリンタを開発していた当時、Windows 95 のベータ版をマイクロソフトからいただいていた、プリンタドライバ（プリンタ本体と Windows とつなげる管理ソフト）のチェックをしていました。

当時はまだコードネームが「シカゴ」と呼ばれていました（実はその CD をどこかに保有している

はず)。これが本格的な Windows が気軽にインターネットに接続できる最初のバージョンでした。

当時は日本の日本語ワープロ環境は専門のワープロマシンとジャストシステムの一太郎や表計算は Lotus 1-2-3 でした。もうこれらは死語ですよ。

葬儀屋さんは何を使っていたか？

MS-DOS という OS が搭載された NEC PC-9801 シリーズ（以後 PC98）がメインで、フロッピードライブ（これも死語ですね）で起動していました。

気の利いた人は 30MB くらい（はい、30MB ですよ--今の iPhone の高解像度の写真が 4 枚も保存できない容量！）のハードディスクで走らせていました。

それでじゅうぶんの量でした。

そこで Win 95 を使うことで（実際はその前の Win でも同様ですが）、アプリが PC98 だろうが、IBM 互換のものだろうが関係なく動く仕様になりました。

今までは PC98 や IBM 互換があれば別アプリを買う羽目になり、乗り換えができませんでした。

まして専用ワープロなんか互換性がまったく無くメーカー間のデータ移行は夢のまた夢でした。

確かに OEM があったりして、ミノルタのワープロは三洋のもので互いにデータの行き来ができましたが、同じ会社のキヤノンの一般的なワープロとオフィス向けの EZPS はまったくの別物でした。

当時のワープロの良いところは一体型の大きなラップトップで液晶ディスプレイ、キーボード、フロッピーもぜんぶあり、罫線も簡単に引けたので日本人が好む文章が掛けました。

更に、当時の MS-Word は罫線だけで一行取ってしまうので行間に線を引くことができたのは日本人が開発した日本人のための日本語ワープロのみでした。

葬儀屋さんパソコンですら乗り遅れた

PC98 が世界標準から外れており、フロッピーディスクの互換性がなく、Win 95 を走らせるには安価な IBM PC 互換機でじゅうぶんになりどんどん主流から遠のきました。

当時、ちょっとした人ならパーツを買ってきて自分で半分以下のコストで PC を作ってしまう時代でもあり、どんどん「DOS/V 仕様」と呼ばれる IBM PC 互換機が売られるようになり、Windows を走らせるようになりました。

また、一太郎や Lotus 1-2-3 も Windows 対応になってきたのですが、もう手遅れで時代は MS OFFICE に代わりつつありました。

余談ですが、私は英語版の MS-DOS に日本語のモジュールを入れて簡易日本語 PC にして海外から取り寄せたマシンを DOS/V 仕様にして活用していました。

これは憶測ですが、日本の企業が海外進出するようになりデータの互換性を求められたときに一太郎や 1-2-3 のコンビでは対応できなくなり、Word/Excel になってきたのでしょう。

ちなみに東芝製のダイナブック J3100 SS シリーズや NEC PC98 のノートシリーズで ROM に一太郎と 1-2-3 搭載マシンがあったはず（ダイナブック版は持っていません）。

まずほとんどの葬儀屋さんが PC などを入れてなかった。

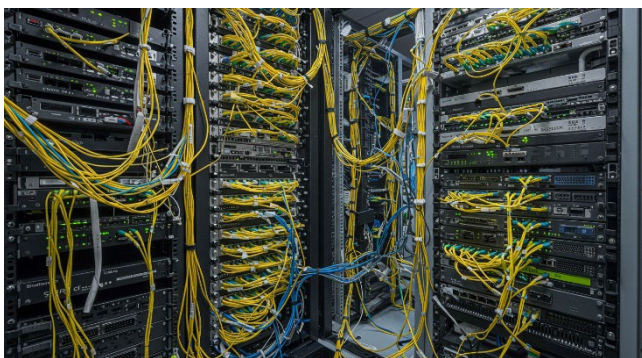
看板は社員の誰かが筆を振るって対応していたところも少なくなかったです。

うちの実家ではいち早くも PC を入れて「もじ書きくん」や「筆の先生」などを入れて対応していました。



<https://www.nspop.co.jp/>

95 のあとにインターネット接続時代



(画像は Google ImageFX で作成)

そう、あの Windows 95 のお祭りは何だったのかを考えると、インターネットに接続できるという機能があったのです。

Apple MacIntosh（現在は Mac）は「Mac TCP」という「ドライバ」を入れることで簡単に接続ができる仕組みができていましたが、Win 95 以前はそう簡単にいかなかったのです。

なぜなら社内のネットワークというのが今のインターネット標準接続基準の TCP/IP ではなく（ネット番地の IP アドレスです）NETBEUI/NETBIOS という今亡きノベルの Netware 社のシステムで構築されていました。

ついでにいうと TCP/IP の「スタック」と呼ばれるドライバは当時のマックですら有料だったりして、雑誌の付録にオマケで付いているのを願って取得していました。

Win はオプション CD を買ってインターネット接続可能にしていました。この CD もまだ私のタンスのどこかにあるはず。

今なら、多くの会社もつドメイン名（インターネットの自宅名みたいなもので yahoo.co.jp や google.com です）を保有している会社さんがほとんどです。持っていないのは何もしない個人くらいでしょう。

そこでも葬儀屋さんは自社の名前を取得するのに遅れを取りました。



そもそも接続をどうするのか（当時はモデムと呼ばれる装置を電話につなぐとか、受話器に「音響カプラー」と呼ばれる「ブラジャー」のような装置を取り付けるしかなく、お父ちゃん・お母ちゃん IT 弱い（当時は「IT」という言葉すらありませんでした）人々にはチンプンカンプンでした。

CC 表示-継承 3.0, <https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=122872197> による

そこで、会社のドメイン名を申請せずに「yahoo.co.jp」や「minolta.co.jp」などを取得できなかったのです。

ちなみに、とあるドイツの人に（ファンなのかどうか知りませんが）「minolta.de」を取得されてしまい法定で争いました。

私は日本とシリコンバレーの研究所をつなぐ業務も当時やっていましたので、情報システム部の一部門とやり取りしていました。当時はその国のドメインはその国でしか申請できなかったの
で、日本側が騒いでも現地の動きは鈍く、結果的に大騒ぎになりました。

当時は「サイバースクワッター」と呼ばれるネットの強請り屋が幅を利かせていました。

ドメイン申請の遅れは葬儀屋さんも同様でした。

私も「WADA.CO.JP」をタッチの差で取得できず、苦肉の策で「KK-WADA.CO.JP」を取得しました。つまり「株式会社 和田」という意味で。今は失効。

ではどうやってサーバを動かすのか？

ここが次の大きなハードルでした。

私の場合はミノルタ時代に社内のネットワークを通じてサーバをいじっており、多くの人よりもコネでメールアドレスも取得していたのでかなりの経験がありました。

そこで 95 年の当時はベッコアメ・インターネットという会社（今でも存在）で、株式会社和田の

中でホスティングしてもらい（サーバを立ち上げて）管理していました。

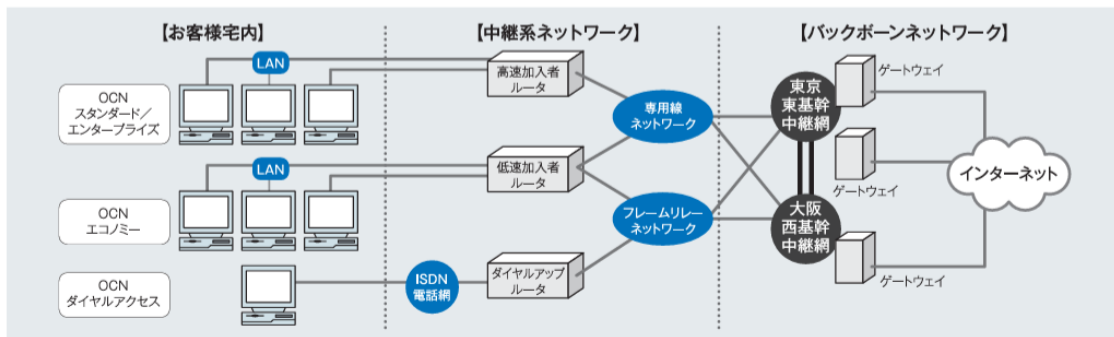
その後、1996年12月にOCNが固定費用38,000円で全国展開されるようになり大勢が契約しました。（そもそもOCNは1995年に慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスと三田キャンパスをつなぐシステムと、なぜだか岐阜から始まりました）

慶応の理由はわかりますが、岐阜の理由が今から思うと、スーパーカミオカンデだろうと。

それでも葬儀屋さんの多くはパソコン、インターネットを使わなかった。

そしてずっとポケベルを活用していた。たしかにポケベルは便利だったし、ケータイ電波が届かないところでも着信できたので重宝した。

そのOCNに乗り換えたときうちではサーバを時前で管理することにしました。



OCNのネットワーク概略図

IP : Internet Protocol LAN : Local Area Network
ISP : Internet Service Provider ISDN : Integrated Services Digital Network

<https://hct.lab.gvm-jp.groupis-ex.ntt/panel/pdf/C-3-5.pdf> より

そもそも、インターネットサーバを管理できる人は葬儀屋さんにはいなかった！

インターネット＝ホームページの世間の認識

当時、ホームページを持つのもハードルが高かった時代がありました。

実際、今はWordPressやWixなどのブログ型レンタルサーバがあるのでハードルは下がったが、当時のWebサーバはHTMLという言葉を意識してプログラムコードを書く必要がありました。更に、CSSだけのサーバサイドだの色々な言葉が空中戦を広げて、ますます一般の人にはわからなくなってしまい、「インターネット」というのは「ホームページを見る」という行為に思われていて、電子メールやネットニュース（これも死語）の活用やファイル転送（FTPというもの）があることも理解されなかった。

ホームページを見るにはネットスケープ社（通称ネスケ）が開発した「ブラウザ」というホームページを見るアプリが必要で、それをどこからか入手する必要があった。

Windows の場合 Internet Explorer (通称 IE) があり、これがまた大ブレイクした。

MS が OS と同梱したので、ネスケ社が独禁法で訴えたのです。(ネスケ社は消えて現在、資産は Mozilla に移管されています)。

まして、日本は阪神・淡路大震災のあとにアナログケータイが発達したが、キャリア間のショートメッセージは通じなかったから厄介であった。

そこに NTT DoCoMo から i-mode が 1999 年にポケベルの代わりに発表されて人々がケータイをインターネットと接続しビジネスでも使えることを覚えたが、我々葬儀屋さんができるのは、式場の地図をサーバに置き、ボタン一つで我々の事務所に電話が掛けられるようにしたくらいであった。

ちなみに最初の「絵文字」の開発はシャープです。それを標準化しみんなが使えるように工夫したのが NTT ドコモの栗田氏です。

あとは Google 検索も当初はなかったので Yahoo が無料掲載させてくれていたので、登録し、Yahoo 検索経由でお客さんに探してもらしかなかった。
それをやっていた葬儀屋さんはまだマシだっただろう。

ホームページを作るにも、マイクロソフトが提供していた FrontPage や IBM Homepage Builder などを活用してホームページを作る時代が訪れたが、そのアプリがないと気軽に更新できず「ブログ」という概念が出来つつあったが、ハードルが高かったのはいうまでもない。
つまりホームページを更新するにもアプリが入っている特定の端末から以外は更新できなかった。

ハードルが高かったので葬儀屋さんには難しかった。

しかしそれで諦めなかったのが自分です。

時代がどんどん進み、とうとうガラケーでは対応できない時代になってきた。

次に訪れたのが「音」の時代。着信音とかの配信もありました。つい最近まで「着メロ」とかがありましたね。

そしてとうとう動画をどうするかと。

動画の時代が訪れてリアルプレイヤーが登場した。

これを活用して動画を見る。

当時は色々な動画を含む画像フォーマットが乱立していて(特許紛争もかなりあった)、どれを使えばいいのかも悩むところであった。

しかも回線は遅いから大量にデータを消費するような場合だと他の通信業務ができず悩みどころでもあった。

ホームページを見るには「ブラウザ」でできたが、動画を見るができなかった。

Adobe が Flash という技術を提供したが脆弱性がたくさんあり、これもまた別の問題に発展し、今は Flash を活用しているサイトは 100 万の中で 1 個くらいかも（実はこの前、遭遇しました）。動画を作るにもかなりのマシンパワーが必要でした。

私も 5 分の動画を作るのに何時間もかかり、更に失敗したらやり直しの時代でした。

ちなみに、ミノルタ時代でもデザイン部がマックを活用して CAD データから 3 次元の画像を作るのに当時も一晩かかっていたいました。

パソコンとネットに乗り遅れて、次は生成 AI に乗り遅れか？

私はこの 30 年間、葬儀業界でずっとイヤなものを見せつけられてきました。

葬儀の文化を研究する学会ですら、同じことが起きて副会長でありながら、2023 年（一昨年ですよ！）に退会しました。



保守的な葬儀屋さんを考えるとそうなのだろうけど、いい加減にしなよとつくづく思いました。そんな中、私も 2021 年ころから都内の生成 AI 開発会社の営業顧問をすることになりました。その AI は準日本製です。

会社名は「クリスタルメソッド」で、今、ロンドンブーツの田村淳さんを起用しています。そこで DeepAI を活用した生きた仏壇を紹介していました。

それ以外に AI を使って音の解析をし、安全基準の反響で評価などの営業支援も。

一つは風車の中の音を測定し、ギヤやモーターなどのパーツ交換時を割り出す案件など。

そのように葬儀と生成AIのノウハウがあったので、昨年からは葬儀社向けにAI活用勉強会を開催しましたが無料講習会の募集を掛けても葬儀屋さん誰一人も手を挙げず、葬儀屋さん以外の方々が毎回参加するようになりました。

葬儀業界にはAIのハードルがよほど高いというのが再認識できました。

もしかしたらパソコンの使い方から説明しないとイケないのかなど。

つまり「ChatGPT」「Gemini」「Claude」「Perplexity」以前に「ブラウザ」とはなにかを教えな
いとイケないのだと。

今、jFuneralの事業として、月の第1金曜日のAI講習会はそのまま続けます。

第2金曜日はビジネス展開ワークショップでさまざまなノウハウやツールを紹介してビジネスでの突破口を開けるようにします。

そして第3金曜日は無料で参加できる初心者AI活用セミナー。

ここがきっと葬儀屋さんが必要なクラスなのだろうと。

ChatGPT以前にブラウザを介してアクセスするとか、そもそも今のAIというのは何か、そしてどうやって使うのかという紹介が必要なだろうと。

まずは、どんな人もChatGPTなどに触ってみることからはじめることが大切です。

昨年、総務省が調査したところ、生成AIを利用している人は、中国では56.3%、米国では46.3%、英国では39.8%、ドイツでは34.6%だそうです。

しかし、日本では9.1%という桁違いの低さ。

これは葬儀業界だけでなく、国民すべての保守的な意識なのか、今のChatGPTへの苦手意識があるのか、日本語がイマイチだから使わないのか。たぶん、複合的な理由だと思います。

しかもOpenAI社はアメリカの会社で、日本語と日本文化を理解していません。海外のどの生成AIを開発している会社も同様です。だがOpenAI者は日本語対応のために最初の海外オフィスは日本に作り、日本語対応に力を入れるように動いています。そのために国も日本の多くの企業が海外のAI開発会社に投資をしているのも過言ではありません。

だが日本語を使っている人の世界パーセンテージはどれくらいあるのだろうか？

現在の世界人口が約81億人で日本人の数として1.25億人で、更に日本語を第二母国語として活用している人たちが1000万人いるらしく、それを考慮すると1.6%の世界人口が日本語を活用していることになります。

世界順位で言えば言語利用者順は13位らしいです。

確かに日本語の理解がイマイチではありましたが、日々向上しています。

もちろん、日本の葬儀に関してほぼ知識がありませんし、墓地埋葬法に対する情報だけでなく、日本の法令そのものを理解していません。「生成 AI」ゆえに勝手に解釈し作ってしまうことかかります。

それを見極めるには自分なりに知識と知恵で武装しないとイケません。

そのような時間が葬儀屋さんにあるのかと問われるとないと言わざるを得ないです。

だからこそ、社長が自ら学ぶ必要があります。

小さい会社なら従業員が退職して会社には何も残らなくなりますよ。

まとめ

葬儀業界はパソコン、ネット、そして今まさに生成 AI の時代に取り残されてしまいそうです。

ホームページ対応、SEO ができず、Google 広告にも対応せず、この 15 年で葬儀社でもないネットブローカーの「小さなお葬式」が日本一お葬式を受注している会社になってしまいました。

そして未だに葬儀社の一部なのか多くなのか、水増し計上している会社もあるし、同じ商品を多重計上する会社もあれば、価格もデタラメで 86 万のお葬式が 27 万になりますなど保険でまかなうわけでもないのに適正価格を問うような互助会もあります。更に悪いことにこの会社、会員として掛け金をすでに 50 万を入れての話なので開いた口が塞がらないです。

Win95 発売から今年で 30 年経過しましたが、進歩がない葬儀のビジネスどうしたらいいのか。

そこで本当にまともにやっていこうとしている正統派の葬儀屋さんまで後ろ指をさされてしまい、最後はブローカーにより価格を押し付けられる羽目に。

業界の身から出た錆とも言えるのですが、この世界に生まれた人間として歯がゆいところではないです。

葬儀業界で生成 AI を活用することはまだ難しいかと思いますが可能性は無限大です。

しかも冒頭で述べたように、今から使わないと手遅れになります。

生成 AI はどんどん進化していることです。

遺影作りに職人は必要ありませんし、着せ替えも瞬時にできてしまいます。

写真加工外注費がゼロになりますが、サポート体制や社員を教育するよりも外注したほうがまだ安いです。

大切なことは、後ろ向きになるのではなく、自分なりにどう使えるか検証することです。

各人の使い方がそのやり方をセミナーやワークショップでお伝えてしているわけです。

生成 AI というのは、魔法の箱ではなく、使い方次第ではパンドラの箱にもなります。
舌切雀の大きいつづらに入っているオバケをどう手なづけるかが課題です。



DALL-E に作らせた

まず、各社どのような使い方ができるか検討も必要ですが、基本的な使い方以前に登録方法や金額、更にどこまで無料で使えるかなども知るの大切です。

それがわからないと、自分たちで情報を集めて使うというのは多忙な葬儀屋さんにはハードルがものすごく高いかと。

だからこそ、パソコンもネットも乗り遅れてしまったのだろうと。

そして、世間だけが先に移動して、取り残されてしまいました。

フューネラルビジネスフェアやエンディング産業展を見てもおわかりのように、超アナログな会社とネットどころか WEB3 技術を駆使した最先端の企業まで揃っています。

消化器の使い方同様に、いざ使い方を知らなければ持っても火事の際には使えないですよ。タイヤのパンクリペアキットも同様。

情報だけなら YouTube でゴマンとあります。

しかし、YouTube を見て理解できる人は少ないです。

YouTube Shorts はあの速度で流れているのは繰り返して見させるため、アクセス回数を稼ぐためです。そのような手口に乗せられて悲しくありませんか？

わからないことは多いし、わかっていない事すらわからないのが生成 AI の世界です。

昨年末、まず「プロンプトってなに？」をお伝えするよりも「どうやって登録するの？」から始めたいと思いました。

ここからが営業

マーケティング、セールス、お客さんへのサポート、新しいビジネス提案などができます。

ぜひご検討いただければ。

そして講習会は2025年、今年からホームページ以外にも公式LINE (@yeyshonan と@jfuneral)、メルマガとnote.com、そしてDISCORDを通じて案内を掲載する予定です。

LINE お友達募集：

@yeyshonan <https://lin.ee/JX59jHa>

@jfuneral <https://lin.ee/1uJFngd>

過去の内容は非公開（限定公開）ですが、内容を確認し検討されたい場合はビデオのマインドマップを作成いたしますのでお送りいたします。

DISCORDとは（現在ソニー系列の子会社）でゲーマーたちがコミュニケーションのために利用しています。使い方がわからない方々もいらっしやるのでこちらも講習会を開きます。

DISCORDも2つあり、AIと葬儀で、YEY AI CoursesはAIを使ったマーケティングやワークショップの内容で、jFuneralは純粋にマーケティングやビジネス情報です。

Discord 参加者募集：

YEY AI Course: <https://discord.gg/7ST4VfUQzM>

お葬式 Marketing: <https://discord.gg/duNWruXn>

有料と無料メンバーシップがありますがポッドキャストは無料でお聞きいただけます。

有料AI勉強コースをオブザーバーとして1回目の参加は無料です。

有料AIコースの一回ずつ550円は勉強会のみで、2,200円はビデオや資料も付いてきます。

無料AI勉強コースは何度でもご参加いただいてもかまいません（資料の提供はございません）。

有料ワークショップコースは月額11,000円ですが月に同じ内容ではありますが数回開催予定です。リアルワークショップも都内の貸し会議室で予定しております（別途料金）。

有料ワークショップの方々は常時相談可能です。

場合によっては各社に訪れて有料にて研修時間を設けることも可能です。

決済はSquare、Stripe、またはPayPayにて承ります。

有限会社ワイ・イー・ワイとして、葬儀のマーケティングオンラインセミナーを jFuneral.com を通じて行っております。どなたでも無料でポッドキャストをお聞きできます。

ぜひご試聴くださいませ。オリジナルは Soundcloud で提供しております。

Apple Podcast、Spotify、Amazon Music で「葬送ビジネス」で検索し、ご試聴できます。



Apple Podcast



Spotify



Amazon Music

© 有限会社 ワイ・イー・ワイ 代表取締役 和田裕助

email: infodesk@yey.co.jp